

科目名	救急救護医学特論 I			分野・必選別・ 単位数	専門科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 小菅宇之 教授 村田宣夫 准教授 藤崎竜一						
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義
授業の概要	外因性の傷病者が呈する症状・徴候・病態を医学的に把握し、その鑑別・判断方法、緊急度・重症度。救急救命処置、病態に見合う的確な搬送と病院選定の質の向上を図るため、医師が実施している診断学手法を病院前救急救護学に導入した総合観察推論を学修し、高いレベルの医学的素養を修得した教育指導者として、MCでの根拠に基づいた説明や現場での教育・指導のできる能力を涵養する。						
授業の到達目標	①例題となる外因性疾患について、症候と病態生理の関係を説明できる。 ②例題となる外因性疾患について、症候から鑑別・判断方法を説明できる。 ③例題となる外因性疾患について、重症度・緊急度、搬送方法を説明できる。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	小菅 宇之	教授	適切な症例報告の検索、ディスカッションに必要な資料の準備、プレゼンテーションの準備ができる。			
	2	小菅 宇之	教授	頭部外傷① 頭部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	3	小菅 宇之	教授	頭部外傷② 頭部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	4	小菅 宇之	教授	胸部外傷① 胸部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	5	小菅 宇之	教授	胸部外傷② 胸部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	6	村田 宣夫	教授	腹部外傷① 腹部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	7	村田 宣夫	教授	腹部外傷② 腹部外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	8	小菅 宇之	教授	四肢外傷① 四肢外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	9	小菅 宇之	教授	四肢外傷② 四肢外傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	10	小菅 宇之	教授	熱傷① 熱傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	11	小菅 宇之	教授	熱傷② 熱傷について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	12	藤崎 竜一	准教授	中毒① 中毒について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	13	藤崎 竜一	准教授	中毒② 中毒について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
	14	小菅 宇之	教授	災害① 災害事例について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。			
15	小菅 宇之	教授	災害② 災害事例について適切な症例報告を用いて、プレゼンテーションを行い、ディスカッションができる。症例の病態生理、鑑別・判断、重症度・緊急度、搬送方法、病院選定の説明ができる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	毎回の症例報告(自ら検索、もしくは指定)を事前に読み、キーワードの意味を調べ、プレゼンテーションの準備を行う。ディスカッションのために必要な資料の準備を行う。					
	【事後学修】	プレゼンテーションとディスカッションの内容をまとめ、どのような場所でも使用できるプレゼンテーション内容とする。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	マイナーエマージェンシー 原著第3版 医歯薬出版 救急用語辞典第2版 ぱーそん書房						
参考書	JATECプロバイダーマニュアル へるす出版、TRAUMA McGraw-Hill Professional、標準多数傷病者対応MCLSテキスト ぱーそん書房 JPTECガイドブック へるす出版、救急救命士標準テキスト 改訂第9版上下巻 へるす出版						
成績評価の方法および基準	各講義毎に、プレゼンテーションとレポートにより理解度を確認し、このレポートの提出を評価の40%とする。さらに成績評価とし、疾患に対する口頭試問を評価の30%、筆記試験を評価の30%として行う。						
その他履修上の注意事項	プレゼンテーション、ディスカッションを中心とするので、授業中の積極的な発言が必要である。事前にJPTECの受講をしていることが望ましい。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						